

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

全体プログラム

開催日場所 開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

20年10月20日(月)	名古屋	昭和ビル ホール	昭和ビル 9階	愛知県名古屋市中区栄4-3-26	tel 052-261-7751
10月24日(金)	福岡	福岡ビル 大ホール	福岡ビル 9階	福岡市中央区天神1-11-17	tel 092-716-8021
10月28日(火)	東京	経団連会館 経団連ホール	経団連会館 14階	東京都千代田区大手町1-9-4	tel 03-5204-1500
10月31日(金)	札幌	北海道建設会館 大ホール	北海道建設会館 9階	札幌市中央区北4条西3-1	tel 011-261-8181
11月4日(火)	仙台	仙台商工会議所 大会議室	仙台商工会議所 7階	仙台市青葉区本町2-16-12	tel 022-265-8181
11月18日(火)	大阪	大阪科学技術センター 大ホール	大阪科学技術センター8階	大阪市西区靱本町1-8-4	tel 06-6443-5324

・各社ハンフレット展示 各会場

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

普通工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

・各社製品ハンフレットの展示・配布を各会場で行います。

13:00-13:10

開会あいさつ

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

東北大学 大学院経済学研究科 教授 川端 望 殿
日本貿易振興機構 アジア経済研究所 開発研究センター 研究員 佐藤 創 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。(東京、仙台、大阪：川端望教授 名古屋、福岡、札幌：佐藤創研究員)

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒープレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

——— ・鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ———

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授 河合 糺 殿

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

名古屋会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年10月20日(月)

昭和ビル ホール

昭和ビル 9階

愛知県名古屋市中区栄4-3-26

tel 052-261-7751

・各社パンフレット展示 同ホール

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

共英製鋼㈱

取締役 常務執行役員

名古屋事業所長

座古 俊昌

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会

品質管理委員会

中部鋼鉄㈱

技術部長

村山 敬司

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

日本貿易振興機構

アジア経済研究所

開発研究センター 研究員

佐藤 創 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会

平鋼技術委員会

トピー工業㈱

開発営業担当部長 渡辺 晶雄

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒーブレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

—— 鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ——

普通鋼電炉工業会

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長

日本大学

生産工学部 土木工学科

教授

河合 紘茲 殿

(実態調査報告)

委員

共英製鋼㈱

執行役員 名古屋事業所 製造部担当

平岩 治雄

(特別調査報告)

委員

㈱伊藤製鉄所

品質保証部 部長

高橋 直伸

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に進んでいる機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

㈱鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役

林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

福岡会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年10月24日(金)

福岡ビル 大ホール

福岡ビル 9階

福岡市中央区天神 1-11-17

tel 092-716-8021

各社パンフレット展示 同ホール

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

管電工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

普通鋼電炉工業会 理事 九州製鋼(株) 社長 大西 哲也

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 合同製鉄(株) 企画部技術総括グループリーダー 森満 隆

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

日本貿易振興機構 アジア経済研究所 開発研究センター 研究員 佐藤 創 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会 新関西製鉄(株) 取締役常務執行役員 児玉 雅生

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒープレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

—— 鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ——

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授 河合 紘茲 殿
(実態調査報告) 委員 共英製鋼(株) 執行役員 名古屋事業所 製造部担当 平岩 治雄共
(特別調査報告) 委員 合同製鉄(株) 船橋製造所 管理部長 中原 也寸志

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

東京会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年10月28日(火)

経団連ホール

経団連会館 14階

東京都千代田区大手町1-9-4

tel 03-5204-1500

各社パンフレット展示 ホールラウンジ

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

普電工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

普通鋼電炉工業会 理事 朝日工業(株) 社長 赤松 清茂

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 JFE 条鋼(株) 技術部 主任部員 橋本 宣隆

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

東北大学 大学院経済学研究科 教授 川端 望 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会 王子製鉄(株) 取締役技術部長 割田 俊明

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒーブレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

——— ・鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ———

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

	委員長	日本大学	生産工学部	土木工学科	教授	河合 紘茲	殿
(実態調査報告)	委員	(株)向山工場	品質管理課	課長		伊藤 正美	
(特別調査報告)	委員	合同製鉄(株)	船橋製造所	管理部長		中原 也寸志	

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

札幌会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年10月31日(金)

北海道建設会館 大ホール

北海道建設会館9階

札幌市中央区北4条西3-1

tel011-261-8181

各社パンフレット展示 同ホール

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

普通鋼電炉工業会 理事 清水鋼鉄(株) 社長 清水 孝

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 トピー工業(株) 開発技術部長 中村 毅

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

日本貿易振興機構 アジア経済研究所 開発研究センター 研究員 佐藤 創 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会 トピー工業(株) 開発営業担当部長 渡辺 晶雄

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒーブレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

——— ・鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ———

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授 河合 紘茲 殿
(実態調査報告) 委員 新北海鋼業(株) 製造部 マネジャー 八鍬 瑞雄
(特別調査報告) 委員 (株)伊藤製鉄所 品質保証部 部長 高橋 直伸

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

仙台会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年11月4日(火)

仙台商工会議所 大会議室

仙台商工会議所 7階

仙台市青葉区本町2-16-12

tel 022-265-8181

各社ハンフレット展示 同会議室

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

普通鋼電炉工業会 理事 東北スチール(株) 社長 大西 建男

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 王子製鉄(株) 取締役技術部長 割田 俊明

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

東北大学 大学院経済学研究科 教授 川端 望 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会 大三製鋼(株) 品質管理部長 下村 慎一

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒーブレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

—— 鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ——

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授 河合 糺 殿
(実態調査報告) 委員 東北スチール(株) 取締役管理部長 藤村 俊生
(特別調査報告) 委員 北越メタル(株) 品質保証部 部長 松原 光成

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

大阪会場 プログラム

開催日場所

開催時間：午後1時～5時

参加費：無料

平成20年11月18日(火)

大阪科学技術センター 大ホール

同センター8階

大阪市西区靱本町1-8-4

tel 06-6443-5324

各社ハンフレット展示 小ホール

申込み先：普通鋼電炉工業会 TEL.03-5640-1122

FAX 03-5640-1125

普電工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>

13:00-13:10

開会あいさつ

普通鋼電炉工業会 理事 新関西製鉄㈱ 社長 杉山 勝利

13:10-13:40 発表25分 + 質問時間5分

最近の電炉鋼材の概況

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 共英製鉄㈱ 執行役員生産企画部長 武田 英

電炉鋼材は、貴重な資源である鉄スクラップをリサイクルして生産されます。鉄スクラップは厳格な管理のもとで、環境負荷の少ない電気炉製鋼により、クリーンな新たな鋼として生産されます。電炉鋼は、わが国の粗鋼生産量の約4分の1を占め、その主要生産品種である鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚鋼板などとして、建設分野を中心に幅広く使用されています。本報では、最近の生産技術の進歩、品質管理、普通鋼電炉業の特徴、鋼材製品などについてご説明いたします。

13:40-14:25 講演40分 + 質問時間5分

講演

東南アジア鉄鋼業の構造と再編

東北大学 大学院経済学研究科 教授 川端 望 殿

東南アジア諸国には、現在にいたるまで高炉一貫による大量生産はなく、その鉄鋼生産はほとんど電炉に依拠している。東南アジア諸国の鉄鋼業は、インドネシア、マレーシア、タイを中心に1980年代後半から急速に成長した。しかし、アジア金融危機により各国ともに大きな打撃を受け、興味深いことに、その後の展開においては、各国のパフォーマンスの差が明確になってきている。一方で生産・消費ともに高い成長率を示すタイやベトナム、他方で金融危機以前に到達した鋼材需要水準をなかなか越えてこないインドネシアやマレーシア。東南アジア鉄鋼業の需要・生産構造には各国それぞれどのような特徴があり、なぜ諸国間の差が広がってきているのか。東南アジア電炉メーカーの技術と経営にはどのような特徴があるか。政府の政策はどのような役割を果たしているか。国際的業界再編と原料価格高騰の下で、スクラップや製品の市場はどうなっていくのか。講演ではこうした論点について考えてみたい。

14:25-14:50 発表20分 + 質問時間5分

490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格について

普通鋼電炉工業会 平鋼技術委員会 新関西製鉄㈱ 取締役常務執行役員 児玉 雅生

490N/mm²級建築構造用広幅平鋼は、主として溶接ビルドアップH形鋼のフランジに使用される。建築構造需要が増大する1988年に、(社)日本鉄鋼連盟 広幅平鋼研究委員会での成果をベースにしたメーカー規格SM490Aと、1995年に制定された「建築構造用圧延鋼材」SN規格の2つの規格体系で生産している。今回、両規格の化学成分を統一するとともに、SN規格のシャルピー吸収エネルギー下限値を50Jとし、これを超える下限値も保証できる490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格を新たに制定し、より高い耐震性能を追求したので、その内容について、ご説明いたします。

14:50-15:05 15分

コーヒーブレイク

15:05-16:15 講演60分 + 質問時間5分

講演

電炉鉄筋棒鋼品質調査報告

—— 鉄筋棒鋼の実態調査 ・特別調査：異形棒鋼の曲げ性能に関する調査 ——

普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会

委員長 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授 河合 紘茲 殿
(実態調査報告) 委員 東京鉄鋼㈱ 本社工場 品質保証課 村上 直也
(特別調査報告) 委員 ㈱伊藤製鉄所 品質保証部 部長 高橋 直伸

電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会は1987年第1次の品質調査委員会を行い、以来、定期的な品質調査とともに、ユーザーからのご意見の中からテーマを定め過去6回の委員会において、曲げ戻し性状、溶接性、高強度鉄筋SD490の性状、アルカリ骨材反応の影響など、様々な調査研究を行ってきた。一方この間、鉄筋コンクリート構造物の設計法は、許容応力度設計法から限界状態設計法へと移行すると共に、阪神大震災を契機に地震時の設計法が大幅に見直された。これに伴い、鉄筋棒鋼の品質も更なる向上が求められたが、鉄筋コンクリート構造物の設計時に必要とされる機械的性質に対する問題提起は極僅かであった。しかし、鉄筋加工時における鉄筋折損、亀裂などに対する問題提起は数多く寄せられている。このような背景から今回第7次の品質調査では、鉄筋曲げ加工時の問題点を改善すべく基礎資料収集の目的で、主に曲げ加工試験をテーマとして取り上げ、設定した諸条件下で曲げ試験を行った。この曲げ試験の結果と、曲げ加工時に注意を要する事項を報告するとともに、継続的に行っている機械的性質、化学成分などの電炉鉄筋棒鋼の品質調査結果についてご報告します。

16:15-17:00 講演40分 + 質問時間5分

講演

鉄スクラップ価格高騰の背景と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

鉄スクラップ価格は、昨年末から今年7月にかけて、わずか6ヶ月で3万円/トン上昇し7万円/トン台を記録した。史上例をみない短期間の高騰は何だったのだろうか。さらに7月から8月の価格急落はどうであったのか。価格の大きな変動の背景を探り、今後の価格動向を展望する。日本の鉄スクラップに対する需要は、国内および国外を問わず2010年以降の中期的視点に立っても強い。高価格時代到来を前提とした企業運営や販売政策、還元鉄などの他の鉄源使用などの原料対策が必然となるだろう。一方、原料価格高騰要因の一つとなっている中国の鉄鋼需要は、オリンピック終了後どのような軌跡を描くのだろうか。国連人口推計からみた2050年を展望する。

17:00

閉 会

2008年 電炉鋼材フォーラム 申し込み用紙

申し込み会場にレ点を入れてください。お申込は会場ごとをお願いします。

- | | | | |
|--------------------------------|----------------|---------------|------------------|
| <input type="checkbox"/> 名古屋会場 | 20年10月20日(月)開催 | 於: 昭和ビルホール | [申込期限:10月14日(火)] |
| <input type="checkbox"/> 福岡会場 | 20年10月24日(金)開催 | 於: 福岡ビル大ホール | [申込期限:10月17日(金)] |
| <input type="checkbox"/> 東京会場 | 20年10月28日(火)開催 | 於: 経団連ホール | [申込期限:10月20日(月)] |
| <input type="checkbox"/> 札幌会場 | 20年10月31日(金)開催 | 於: 北海道建設会館 | [申込期限:10月24日(金)] |
| <input type="checkbox"/> 仙台屋会場 | 20年11月 4日(火)開催 | 於: 仙台商工会議所 | [申込期限:10月28日(火)] |
| <input type="checkbox"/> 大阪会場 | 20年11月18日(火)開催 | 於: 大阪科学技術センター | [申込期限:11月10日(月)] |

<申込者> ご出席者をお知らせください。よろしくお願い申し上げます。

会社名等		
所属役職		
氏名(ふりがな)	()	どちらかに○を付けてください。 申込者は、出席・欠席する。
住所	〒	
連絡先	TEL	FAX

出席者の業種 ○印をお付けください。

1. 官公庁、自治体、教育、団体関係 2. 建設会社 3. 設計会社 4. 橋梁メーカー 5. 鉄筋加工・圧接関係
6. 鉄骨加工関係 7. 機械・造船・自動車 8. 商社、流通、特約店等 9. その他()

普通鋼電炉工業会からは参加証を事前にお送りしませんので、申し込まれた方は当日会場受付にお出でください。

出席者氏名 出席者確認のための名簿を作成します。 *用紙は必要に応じ、コピーして下さい。

会社名	所属役職	氏名 (ふりがな)	Tel
		()	
		()	
		()	
		()	

※ご案内先の変更・修正等がございましたら、本案内の封筒に指示をご記入上、FAX03-5640-1125宛てにご送信ください。 宛先変更 送付中止 (理由：業務に不要のため その他)